

# 新国立競技場整備事業の進捗に伴う整備コストの変動について

## 本体工事費等 (関係閣僚会議配付資料5ページの上段部分に該当)

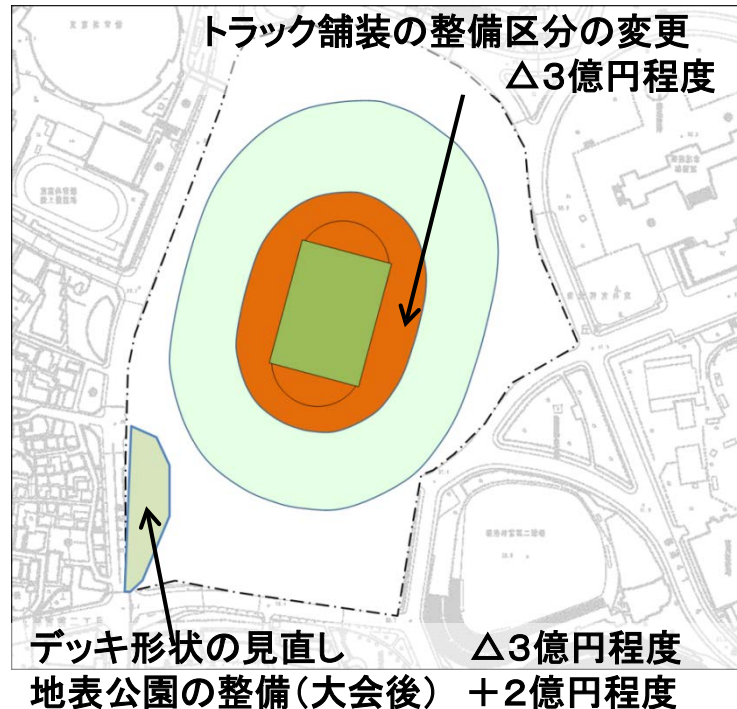
○新国立競技場の本体工事費等は、整備計画※<sup>1</sup>において、1,590億円以下とするコストの上限を設定。

※<sup>1</sup> 新国立競技場の整備計画(平成27年8月28日、新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議)

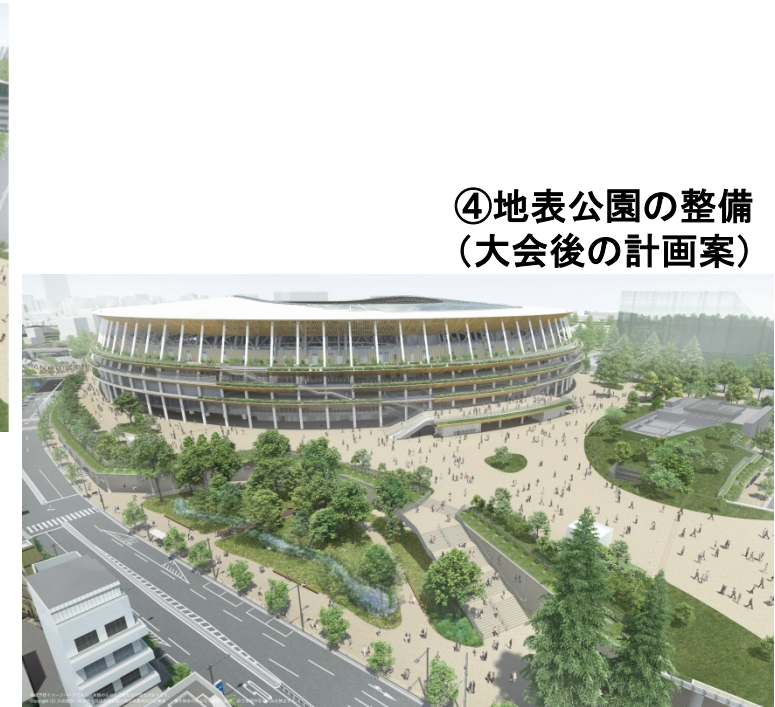
○そのうち、本体工事は、事業者からの技術提案により、公募時の上限額より約38億円減の1,490億円で契約。

○さらに、今後、資料に記載の①デッキ形状の見直し、②トラック舗装の整備区分の変更、④地表公園の整備(大会後)の変動により4億円程度減額する見込み。工事費については、引き続き、コストの上限以下を保持。

○なお、③の賃金・物価変動による増額については現在精査中である。(本年11月頃変更契約予定)



①デッキ形状の見直し  
(大会時の計画案)



④地表公園の整備  
(大会後の計画案)

## 解体工事費

(関係閣僚会議配付資料5ページの下段部分に該当)

- 解体工事費については、当初、旧国立競技場や旧日本青年館の上部解体、インフラ設備の移設及び下水道敷設(千駄ヶ谷幹線)に係る工事費として55億円を計上。
- これは、平成27年8月時点で「支出済又は支出予定」であることが判明していた額を計上(整備コストの上限には含まれていない)。
- その後、新国立競技場整備事業を進める中で、以下の事態が発生し、平成29年度末時点の契約額が約27億円増の約82億円となったもの。

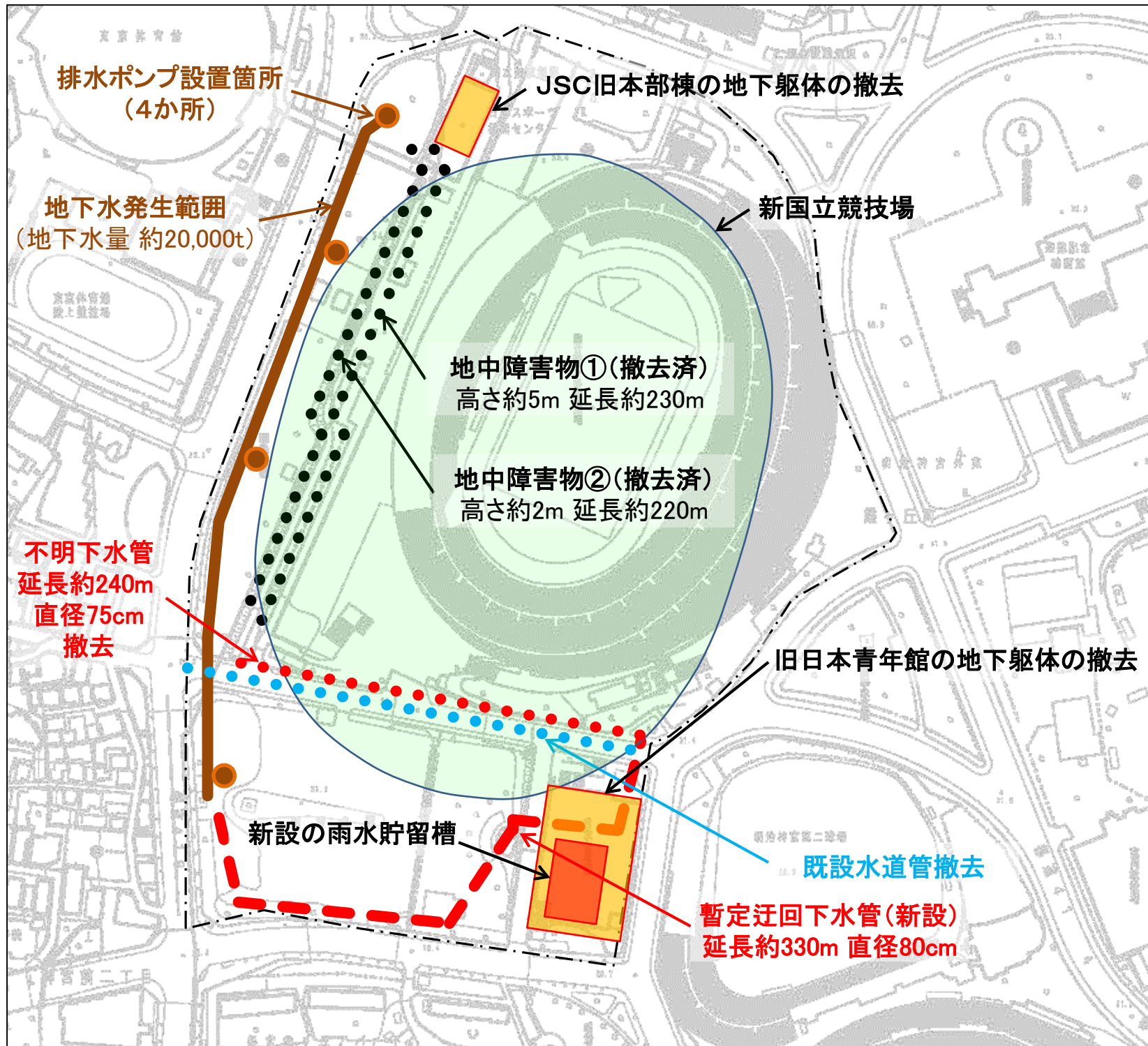
区分	予算額	概要
地下躯体取り壊し等	約16.3億円	整備事業の進捗に伴い仕様等が確定し、残置としていた旧国立競技場等の地下躯体等の一部が整備事業の支障となることが判明し、撤去
地中障害物の撤去等	約7.8億円	下水道敷設工事等における地中障害物の撤去、大量に湧出した地下水の処理
不明下水管切り回し等	約2.7億円	下水道台帳に記載のない下水管が発見され、暫定的に移設

- また、今後、上水道工事の工法変更<sup>※2</sup>及び下水道台帳に記載のない下水管の本移設等により、更に20億円程度の増額を見込んでいる。

※2 粘性が高い土質の発見による硬化剤の注入回数の増加のほか、地中障害物の撤去等

- 解体工事の増額分については、上下水道関連工事はJSCのみの負担となる(国費や都費が充当される経費(分担対象経費)については、当初の範囲内に収まる見通し)。

# 解体工事 地中障害物等 位置図 : 約27億円の主な増要因



# 解体工事 地中障害物等 位置図 : 更なる約20億円の主な増要因

